新春

ふれあい

第100号 庄子やす

謹賀新年 2021

医療法人ガラシア会
介護老人保健施設
ニューライフガラシア
広報委員会
2021年1月発行
TEL 072-729-2346
FAX 072-729-7951

一歩一歩
牛歩のごとく
モ～っと頑張ります

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は改めて言うまでもなく、全世界がコロナ禍に振り回された1年でありました。残念ながら今もまだその渦中にあり、終息の兆しは見えていません。昨年年頭に目標として掲げた地域貢献活動も、年が変わっても開始の見通しすら全く立っていないのが現状です。

医療法人ガラシア会としては、南館の完成と中央館の空調システムの新調工事の終了で、ハード面では一区切りは付いたものの、老健施設ニューライフガラシアの運営については未だに五里霧中です。入所者に対する面会・外出制限、デイケアでのソーシャルディスタンスの確保、マスク装着、ボランティア活動の停止、喫茶コーナーの閉鎖などの新型コロナウイルス感染対策を、いつまで続けなければならないのかと考えると正直気が滅入ってしまいます。先の見えない戦い程、ストレスの溜まるものはありません。

一方で、感染防御はもちろん大切ですが、人としての心を失わぬよう、失わせぬようにする気遣いも忘れてはならないと思います。そのために、感情に流されない科学的な思考に基づいた様々な工夫も凝らしていきたいと考えています。長いトンネルにもいつかは出口があるだろうと、いちるの望みを抱きつつ、利用者様やそのご家族そして職員も含めて、皆様が少しでも心休らかに過ごせる施設を目指して努力してまいりたいと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願いいたします。

施設長　阿曽沼　克弘

丑 2021

12月16日クリスマス会

いつもの行事は楽しく行うのですが、クリスマスは、真面目に、おごそかに。職員による合奏や、キリストの誕生の様子を表した聖劇の後、キャンドルサービスを行い、全員で祈りを捧げました。

サンタさん？からのクリスマスプレゼントもありました。

１２月の誕生日のみなさんのお祝いもしました。

ボランティア紹介
～よろこびのわかちあい～

2018年の様子

ケアリングヨガ
吉田　美佳様

吉田様は幅広い年齢層の方にヨガを楽しんでもらうために活動しておられます。「今年はコロナ禍にあって利用者様がフロアの外に出る機会が減り、筋力が落ちているでしょうから楽しみながら手足を動かし、少しでも筋力をつけていただきたいと考えています。ヨガが終わったら次は楽しいおやつの時間なのでリラックスしすぎて、本当に眠ってしまわれないようにトークの時間を入れたり季節の歌を一緒に歌ったりしてメリハリをつけています.」とのことでした。この日は“紅葉”を歌い、トークの時間も皆さん活発にお話になり、ゆったりリラックスした時間が流れていました。いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

百寿さん※　いらっしゃい

※百寿とは100歳以上の方

池田　テル様

大正１０年１月１３日　　１００歳

好きな食べもの

『芋！芋で大きくなった。』

長寿のひけつ

『考えない事』

趣味

『聖書を読むこと』

100歳の誕生日にご家族から沢山のプレゼントが届きました。

ご家族様より

20歳で結婚、40歳で父が病で入院後は5人の子供を育てながら父の闘病生活を支え、慣れない仕事をしながら子供たちを社会人にしてくれました。父の帰天後は仕事で忙しかった私を助けたり祖母の看病をしたり病気の兄に寄り添ったり…。家族に限らず一番苦しい人の傍で助ける人です。そんな母は私たち子どもの誇りです。

これからも神様のはからいの中で平和に生きて欲しいと願っています。

次女　坂本恵美子様より

私達スタッフに優しい言葉をかけてくださる事も多く、うれしい気分になります。ご家族の面会を心待ちにしておられる池田さん。早くご家族がそろって会える日が来るといいですね。

スタッフ一同

シリーズ　～6～

満足できる最期を迎えるために

～人生の締めくくりの希望を伝える大切さ～

ニューライフガラシア
施設長
阿曽沼　克弘

6.　人生の最終段階を迎えた時の意思表示について

さて、このシリーズもいよいよ最後の章となりましたが、誠に勝手ながら、今回のテーマについては、昨年12月に出版された拙著、「歌う外科医、介護と出逢う――肝移植から高齢者ケアへ」（京都大学学術出版会）に詳述してあるので、その本を一読していただくことをお願いして、この稿を終えたいと存じます。（図1）喫茶コーナー、売店で発売しております。

図1

その代わりに、今回は我が老健施設のユニークな若手の「職人」スタッフ3名を紹介したいと思います。

まず一人目は、私が作詞作曲し歌っている「わらうた」（You Tubeにアップしています）のCDを作ってくれたスタッフです。彼は映像、音楽関係のメカに強くて、いろんな場面でとても助かっています。ご希望の方には無料で配布しています。（図2）

図2

二人目は、私の著書を出すにあたって、私のサインを考えてくれたスタッフです。彼の芸術的センスは格別なものがあり、切り絵などはとても素人の作品とは思えないほどの出来栄えで、いつも感嘆させられます。消しゴムハンコも作ってくれました。（図3）

図3

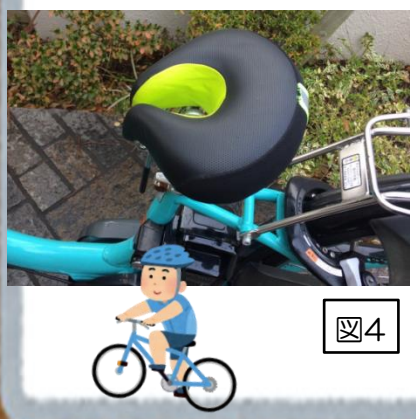

図4

三人目は自転車マニアです。実は私事で恐縮ですが、昨年の秋、早期の前立腺癌が見つかりました。現在ホルモン療法を受けていますが今年の5月頃には重粒子線治療を受ける予定です。自転車で通勤しているため、医師より前立腺の刺激を避けるサドルを勧められました。ネットで購入はしたものの、取り付け方がわからず途方に暮れていたところ、あっさりと付け替えてくれるスタッフがおり、大変助かりました。

彼ら以外にもそれぞれ一芸を持つスタッフはほかにもいます、こんな「職人」たちに囲まれ、毎日楽しく仕事をさせてもらっています。素敵な仲間たちに感謝です。

それぞれの階の正月の飾り付けです。力作ぞろい。正面から見ていただけないのが残念です。

編集後記

第100号が発行できました。歴代の広報委員のメンバーの努力と読んでくださる利用者様・家族様のおかげです。これからもニューライフガラシアの今を発信していけますよう努力してゆきます。